

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム絆中ノ橋

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100451		
法人名	有限会社絆		
事業所名	グループホーム絆中ノ橋		
所在地	盛岡市中ノ橋通1丁目13-10		
自己評価作成日	平成30年12月19日	評価結果市町村受理日	平成31年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&ji_gyosyoQi=0390100451-00&Servi_ccQi=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成31年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の、やりたいことが出来る生活の場を提供する為、行動制限等をしないサービス提供を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、市街地のマンションの2階にあり、近隣には商店街や病院、マンションが建ち並ぶ交通量の多い地域にあり、「可能な限り地域で自分らしく自立した生活ができるよう支援する」という理念に基づきサービスを提供しており、職員は、入居者の意向に添った支援に努めている。地域には、一般住宅が少ないため町内会組織がないこともあり地域交流が難しい状況ではあるが、日常的な外出支援が不足気味であることなど、事業所の課題として認識されており、同会社で運営する保育所との交流を行う等できる範囲で交流するよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム絆中ノ橋

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有の為、毎月のケアカンファレンスの中で職員による運営理念の唱和を行っている。	ホームの理念を「人権を尊重し自分らしく自立した生活を支援する」とし、毎月のカンファレンス時に唱和するとともに、玄関に掲示する等、職員で共有し、日常のケアにおいて実践を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中ノ橋1丁目の町内会組織が存在せず、近隣町内会との連携も困難な状況にある。管轄包括支援センターに対し支援要請をしている。	近隣には、事業所や病院、マンションが多く、町内会組織もないため、地域との交流は難しい環境にあるが、独自に保育所の来訪機会を設けるなどの工夫を行っている。	中心市街地に立地のため町内会組織がない等、地域との交流が容易ではない環境にあるが、事業所としても課題の一つとしてとらえており、担当民生委員や新たなボランティア組織との連携など、一層の取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	傾聴ボランティアさんに訪問を依頼したり、連携施設の保育園園児慰問による異年齢の地域の方々との関りを持つ活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。運営推進会議への参加者は地域包括支援センター(毎回出席)、利用者のご家族、職員である。その出席者の方々と利用者に対するサービスの報告や話し合いを行っている。	地域包括支援センター職員や家族、職員が委員となり、2カ月に1回開催している。町内会がないため町内会長の参加はなく、民生委員には多忙を理由に断られているが、今後も引き続き依頼していくこととしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回開催する運営推進会議の議事録提出をしながら、当グループホームの現況報告を行い、協力関係を構築している。	運営推進会議の議事録提出時や更新申請時等に事業所の状況を報告し、様々な相談をしており協力関係は良好に保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議と併せ、身体拘束委員会を開催している。その中で、当グループホームでの身体拘束をしないケアについての正しい理解を深めている。	運営推進会議終了後、身体拘束委員会を開催している。ベッド周囲のセンサーは使用しておらず、行動を制限するようなスピーチロックについては、職員間で注意しており改善している。夜間も含め玄関や非常階段の施錠は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のケアカンファレンスを通して、またその後の勉強会などの時間を設け高齢者虐待防止関連について職員に伝えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待の防止と同様、ケアカンファレンスを通して利用者へ権利擁護に関する制度について学べるような機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族等の不安や疑問点に対しては随時即対応し、十分な理解を得られるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議の中で家族からの意見を受け、それを運営に反映させている。会議以外でも利用者や家族から受けた意見や要望を職員ならびに地域包括支援センターへ報告できるようにしている。	運営推進会議や面会時に家族の意向を確認しており、運営に反映している。利用者の中には意見や要望などを話せる方もおり、食事内容などに反映させている。家族向けの広報についても1月から始めたところである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するケアカンファレンスを通し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	毎月のカンファレンス時に職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。夜間、定時に利用者を起こしていたが、職員の提案により一人ひとりのリズムに合わせてトイレ誘導する等の改善に繋げている。また、管理者と職員との個人面談を随時行い、特に新人職員とは多く行うようにし、普段から話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間、定時退社などの労働時間、労働内容等の職員の勤務状況を把握し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に対して支援制度を設けたり、研修を受講する機会を作るなど職員のケア向上を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催などの外部研修会に参加し、同業者と交流する機会を設けるよう積極的に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	楽しんで会話が出来る雰囲気づくりに気を配り、笑い声や笑顔のある一日を過ごせるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの特色を理解して頂くよう説明等行い、出来る限りのサービス提供を考え信頼関係が築けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ多くの情報を提供し、自己選択を促しながら必要があるサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を重視し、その時々に応じて会話の相手になったり行動を共にしたり入居者との良い関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や、家族の意向を聞いたうえで必要な支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の機会を大事にし、なるべくゆっくりと気兼ねなく話せる環境、体制をとっている。	家族が通院時に馴染みの場所に立ち寄り、お盆や正月には、実家に外泊する方もいる。また、2カ月に1回訪れる理美容業者が利用者の馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がいがみ合うことのないように、和やかな雰囲気でも過ごせる環境、体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時においては、次の行先の選択についての情報提供等に努め、相談支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営推進会議と併せ、身体拘束委員会を開催している。その中で、当グループホームでの身体拘束をしないケアについての正しい理解を深めている。	利用者の約半数は、会話の中から思いの把握が可能であり、できるだけ意向に添うよう努めている。また、話すことが難しい方は、仕草等から把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が個々に話し相手になり、これまでの暮らしについて各々得た情報を共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りを通して、日々の生活の中で一人一人の過ごし方を観察し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、職員それぞれから意見や提案を出してもらい現状にあった介護計画を作成している。	ケアマネージャーが原案を作成し、ケアカンファレンス時に職員から意見を聞き介護計画を作成している。モニタリングは、3か月毎に行うことを基本としているが、状態に変化がない場合は6か月毎の見直しとしている。家族や医師、看護師等関係者の意見を取り入れ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記載内容や様式について職員間の共通認識を確立し、情報共有が出来て実践に結び付いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われてはいないが、多機能化は難しく、取り組んではいるものの柔軟な支援に結び付いているとはいえない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住宅地という立地条件ではない為、地域資源を把握すること自体が実現不可能な課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療の利用を基本としながら、個人別かかりつけ医との連携も出来るだけできるように配慮している。	家族同伴の通院を基本としているが、半数以上の利用者は、協力医による月1回の訪問診療を受診し、その看護師も点滴等必要時には訪れている。また、提携する訪問看護ステーションの看護師が週1回訪れ、安心して生活できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や訪問歯科、往診を通じて情報共有しながら適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送での入院がほとんどなので、情報の提供や相談には極力協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人・家族と話し合い、事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有している。	看取りの経験はないが、老衰による看取りを想定し、重度化の対応と併せて事業所で出来ることを入居等、必要に応じて家族に説明している。かかりつけ医の協力を得られる見込みであり、今後は職員の勉強会も重ねていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修を行い、災害時の対応方法を共有している。実践は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内での避難体制を構築している段階であり、地域との協力体制構築は今後の課題である。	市のハザードマップでは、水害危険地域ではないため、年2回火災と地震を想定した避難訓練を実施している。火災時は、2カ所の階段から1階に避難する必要があるため、落ち着いて避難できるよう夜間想定訓練もおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、否定的な言葉での対応はしないように職員教育をし、誇りを損なわないような言葉かけや対応をしている。	トイレ誘導やオムツ交換など羞恥心に配慮した対応をしている。衣服の上げ下げ等も他から見えないよう配慮し、誇りを傷つけないようにしている。言葉かけ等についてもミーティング時に職員間で話し合い、注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいかを確認して、サービス提供している。「～がしたい。」「～が食べたい」という発言が聞かれている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所側のマニュアルに沿ってサービス提供するのではなく、個々の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分では着脱出来ない方以外は、ご自分で選択した服装に着替えている。乱れは職員が直している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒になって調理する事は出来ていない。後片付けをする利用者はいるが概ね職員が行っている。	食事の準備を手伝うことはほとんど無いが、食事を楽しめるようおやつに利用者の好きな鯛焼きやたこ焼きを取り入れる等の工夫をしている。外出時のレストランでの食事やコーヒー等を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事終了後の残渣を分析しており、個々の好みを把握している。個々の状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医からの助言なども受け、食事後は必ず口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活記録を分析し、個々の状態に合わせた排泄介助を行っている。	日常生活記録を職員が一目で解るよう改善し、個々にあった支援ができるよう努めている。尿取りパットについて、職員で話し合い個々にあった物を利用したり、夜間睡眠を充分とれるよう配慮することで、改善傾向となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は乳酸菌入り飲料を提供、おやつを含め一日の必要水分量を摂取できるよう配慮している。医療的な部分では医師の処方による薬の服用も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週2回午前中の中の入浴だが、本人の意向を尊重し適宜変更行い、個々の希望にそった支援をしている。	入浴は週2回午前中を基本としているが、毎日足浴、清拭を行っている。同性介助の希望者はいるが、入浴拒否の方はいない。入浴時は、職員と1対1の時間でありコミュニケーションを図る大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事業所の都合に合わせた時間に就寝という事はせず、個々の就寝時間に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化の確認をおこない、副作用が考えられる場合など医師と家族に報告相談し、服用支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みに合った嗜好品の提供や趣味の作品作り、テレビやビデオ視聴などで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	事業所の立地条件により、戸外に出る機会は少ないが、普段行けないようなところに出かける行事を行っている。	事業所が市街地にあり交通量も多い等の理由から、日常的な外出の機会はあまりない。通院時に家族と出かけたり、花見や紅葉狩り等に出かけ外食等楽しんでいる。今後は、近所の散歩など積極的に取り組みたいとしている。	周辺環境や人手不足のため日常的な外出支援を行い難い状況にあったが、事業所としても既に課題の一つと認識し、職員の意欲も感じられることから、今後の取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来ない利用者がほとんどなので、家族より協力を求める事が難しい。買い物同行を考えてはいるが実行できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実際に電話をかける事が出来ない、手紙を書くことが出来ない状態のため、支援しているとは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置を変えたり、模様替えを行って居心地の良い生活空間を提供している。	明るく広いホール兼食堂となっており、ソファに座ってテレビを見ながらゆったりと過ごしており、壁面には行事写真も飾られ、職員は全体を見渡すことができる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や、テーブルの配置を工夫し、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思いに沿ったインテリアや使い慣れたものを活かして居心地よく過ごせるよう工夫している。	室温はエアコンで管理され、ベッドやクローゼット、洋式タンスが備え付けられており、使い慣れたソファやテレビ、テーブル等が持ち込まれ、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の危険性を把握し、安全に出来る事が行えるよう工夫している。		